

長安主人の壁に題す（張謂）

世人 交りを 結ぶに 黄金を 須う

黄金 多からざれば 交り 深からず

縦令 然諾して 暫く 相 許すとも

終に 是 悠悠たる 行路の 心

世人結交須黄金 黄金不多交不深
縦令然諾暫相許 終是悠悠行路心

解説 長安にいたるとき、交友の軽薄なのを嘆いて、宿屋の壁に書きつけた詩である。

語釈 ※黄金＝金銭。貨幣。※須＝を必要とする。※縦令＝もし。仮に。※然諾：承知すること。※悠悠：無関心な態度。※行路心＝通りすがりの人の詰めたい心。

通釈 世間の人は交際を結ぶとき、金の力を目安とする。だから金が多くなければ、交際も深くない。たとえ友人となることを承知した仲でも、金の切れ目が縁の切れめで、交際は次第にうとくなり、しまいには通りすがりの人のような心となってしまう。